

## シンポジウムの開催のお知らせ

- 1 開催日:2月23日(土)14:00～17:00
- 2 開催場所:AP梅田(〒530-0002大阪市北区曽根崎新地2-3-21 axビル4F)
- 3 対象者:一般の方および行政担当者
- 4 入場料:参加無料
- 5 シンポジウムタイトル  
シカと森と人との葛藤 ―いかに森を育み、シカを管理するのか―
- 6 シンポジウム内容  
近年全国的にシカが増加し、過度な採食圧によって森林生態系へ悪影響を及ぼしている。その影響は、希少植物の減少、森林下層植生の衰退、生物多様性の低下、土壌の流出など、多岐にわたっている。  
大杉谷国有林においてもシカの食害による森林生態系への影響が顕著となっており、早急な対策が求められているところである。そこで、シカの生態、シカが及ぼす森林生態系への影響、全国各地のシカ管理の事例を紹介し、大杉谷国有林において作成した「森林被害対策指針」のPRとともに、大杉谷国有林を含む森林におけるニホンジカの管理のあり方を議論する。
- 7 コーディネーター  
日野 輝明(名城大学農学部生物環境学科環境動物学研究室教授)
- 8 ニホンジカによる森林被害の紹介(近畿中国森林管理局)
- 9 講演プログラム  
第一部 パネリストによる講演
  1. 森にとってシカとはどういう動物か？  
高槻 成紀(麻布大学獣医学部動物応用科学科 教授)
  2. 長野県におけるニホンジカの季節移動  
瀧井 暁子(信州大学)
  3. 柵を使って森林(もり)をまもる丹沢大山の取り組み  
田村 淳(神奈川県自然環境保全センター)
  4. 森の再生―三重県大台町における植栽とパッチディフェンスの効果と課題―  
岡本 宏之(宮川森林組合)
  5. 大台ヶ原のシカをいかに減らすか。―シカ生息密度の低減達成と今後の課題―  
―大台ヶ原におけるシカの管理について  
荒木良太((財)自然環境研究センター)第二部 パネルディスカッション
  1. 大杉谷国有林の森林被害対策指針の紹介
  2. パネルディスカッション  
テーマ:増えるニホンジカから森を守る  
パネリスト:講演者及び近畿中国森林管理局計画部長

問い合わせ先: 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター (担当: 中島)  
大阪市北区天満橋 1-8-75  
TEL 06-6881-2013 FAX 06-6881-2055

シンポジウム

# シカと森と 人の葛藤

— いかに森を育み、シカを管理するのか —

今、森が失われつつあるのを知っていますか？

これまで森が経験したことがないほどにシカが増え、森がシカを支えきれなくなっているのです。

人は、太古から続く森の営みにより、様々な恵みを享受してきました。

今、シカを含めた自然への関わり方を真剣に考える時が来ているのかもしれません。

日時

2013年 2月 23日(土)  
14:00~17:00

会場

「AP梅田」会議室BCD  
JR大阪駅より徒歩約5分  
(大阪市北区曽根崎新地2-3-21axビル4F)

**お申込み** パソコン、携帯の方はこちらから。ファックスの方は裏面をご利用ください。

【URL】 <https://system.formlan.com/form/user/osugidanisika/1/> 【QRコード】



※当日参加も可能ですが、できるだけ事前にお申込み下さい。 お申込期限 2月15日

**参加無料**

一般の方、行政の担当者さま、  
多数のご来場をお待ちしています。

シカにより破壊された森林(大杉谷 三重県)

主催：林野庁近畿中国森林管理局

後援：環境省近畿地方環境事務所、大阪府、(一財)日本森林林業振興会、毎日新聞社





シンポジウム

# シカと森と人の葛藤

— いかにも森を育み、  
シカを管理するのか —

## プログラム

### 第一部 講演会

1. 森にとってシカとはどういう動物か? 高槻 成紀 氏 (麻布大学獣医学部動物応用科学科 教授)
2. 長野県におけるニホンジカの季節移動 瀧井 暁子 氏 (信州大学)
3. 柵を使って森林をまもる丹沢大山の取組み 田村 淳 氏 (神奈川県自然環境保全センター)
4. 森の再生 —三重県大台町における植栽とパッチディフェンスの効果と課題— 岡本 宏之 氏 (宮川森林組合)
5. 大台ヶ原のシカをいかに減らすか —シカ生息密度の低減達成と今後の課題— 荒木 良太 氏  
(財)自然環境研究センター)

### 第二部 パネルディスカッション テーマ「増えるニホンジカから森を守る」

「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針」を紹介し、今後の森づくりとシカ管理について総合討論を行います。

コーディネーター：日野 輝明 氏 (名城大学農学部 教授)

パネリスト：高槻成紀氏、瀧井暁子氏、田村淳氏、岡本宏之氏、荒木良太氏、木暮甲吉氏 (近畿中国森林管理局計画部長)



#### 高槻 成紀 (たかつき せいき)

鳥取県出身。1978年東北大学大学院理学研究科修了、理学博士。東北大学助手、東京大学助教授、教授を経て、2007年より麻布大学教授。専攻は野生動物保全生態学。ニホンジカの生態学研究を長く続け、シカと植物群落の関係をテーマに研究。著書に「北に生きるシカたち」(どうぶつ社)、「シカの生態誌」(東大出版会)、「野生動物への2つの視点」(ちくまプリマー新書、共著)などがある。



#### 岡本 宏之 (おかもと ひろゆき)

三重県出身。鈴鹿工業高等専門学校機械工学科卒業。民間企業を経て、宮川森林組合職員として15年間林業全般に従事して林業振興課長として現在に至る。木材生産を行う一方、パッチディフェンスによる防鹿対策と造林未済地への広葉樹植樹を行って6年。業として森林再生事業に取り組んでいる。



#### 瀧井 暁子 (たきい あきこ)

神奈川県出身。東京農工大学大学院修士課程修了。2008年まで(株)野生動物保護管理事務所東日本を中心に各地でニホンジカ、ニホンザル、ツキノワグマなどの生息実態調査などを担当する。2006年より長野県在住、県内のニホンジカやツキノワグマなどの調査研究に関わる。現在、信州大学大学院博士課程在籍中。研究テーマは、長野県のニホンジカの季節移動。



#### 荒木 良太 (あらか りょうた)

埼玉県出身。東京農工大学大学院修士課程修了。2000年まで環境庁職員として主に鳥獣保護事業計画指針の作成に従事。以降、自然環境研究センターで、国、都道府県のニホンジカの保護管理に関する調査研究に携わり、全国的な保護管理の状況把握に努めている。傍ら、ニホンジカの生態系への影響についての探求を行っている。日本哺乳類保護管理専門委員会シカ保護管理検討作業部会事務局。



#### 田村 淳 (たむら あつし)

東京都出身。東京農工大学農学部林学科卒業、同大学院修士課程修了。1995年から神奈川県職員として最初の3年は治山事業に従事して、それ以降は研究畑。当初から植生保護柵による植生回復研究に関わり、現在は柵外での植生回復モニタリングやブナ林の再生研究、森林とシカの一体的管理に取り組んでいる。



#### 日野 輝明 (ひの てるあき)

宮城県出身。北海道大学大学院博士課程修了。農学博士。現在、名城大学教授。専門分野は動物生態学・群集生態学。大台ヶ原地域は1994年から調査し、長年にわたりシカが及ぼす森林生態系への影響を研究。著書に「鳥たちの森」(東海大学出版会)、「大台ヶ原の自然誌：森の中のシカをめぐる生物間相互作用」(東海大学出版会、共編著)、「世界遺産をシカが喰う：シカと森の生態学」(文一総合出版、共著)などがある。

## 会場アクセス

### 【電車をご利用の方】

- ・ JR「大阪」駅下車 中央南口より徒歩約5分
- ・ JR東西線「北新地」駅より徒歩2分
- ・ 地下鉄四ツ橋線「西梅田」駅9番出口  
(ドージマ地下センター入口横)より徒歩1分

### 【大阪国際空港をご利用の方】

南ターミナル、北ターミナル前の各乗り場から大阪駅前(梅田)周辺行きの直行バスで約30分



## ファックス申込み欄

FAX 078-984-2521 (野生動物保護管理事務所 関西分室 担当:横山)

|      |     |               |     |      |                |
|------|-----|---------------|-----|------|----------------|
| ふりがな | 男・女 | 住所(市町村および区まで) | 所属  | 参加人数 | 一緒に来られる方の氏名・所属 |
| 氏名   |     |               | メール |      |                |